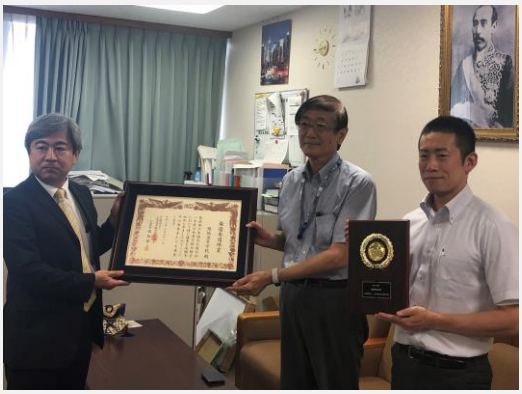
KANKEN AWARDS 2020

最優秀団体賞　受賞

東京都

錦城高等学校



7月29日木曜日、漢検協会常任理事　髙瀬康雄が錦城高等学校を訪問して「最優秀団体賞」の授与を行いました。
夏季休暇中のため、校長室にて松林校長先生に賞状と楯をお受け取りいただきました。

このたびのご受賞について、松林校長先生と田代先生にお話を伺いしました。

今回このように名誉な賞を受賞し、大変嬉しく思います。
本校では、何かに挑戦して結果を出す経験を子どもたちに積ませたい、その経験から前に向かう姿勢を養ってほしいと考えて漢検に取り組んできました。国語科の教員は、生徒たちが自分の考えをしっかり人に伝えられるように、生徒ひとりひとりに細かく指導しています。そのような積み重ねが今回の受賞につながったのだと思います。
学校全体で生徒たちが良い結果を出していると、国語や漢字が苦手な生徒の中からも「それなら自分もできるかもしれない」と前向きに頑張る生徒が出てきます。そのような生徒が良い成績を手にすると、それがまた別の生徒の目標になる。こうしたことが本校の国語のレベルを少しずつ向上させているのだと考え、これから先のレベルアップも楽しみにしています。（松林校長先生）

私が漢検に携わって、今年でちょうど10年になりました。国語課教員の諸先輩方から「漢字や言葉は言語学習の最も根幹であり、基本をおろそかにしてはならない」と、漢検の担当を引き継ぎ、校内での開催を続けてきました。
進学校である本校では、入学直後から3年後の入試を見据えて日々学習しているのですが、生徒にとって3年後はずいぶん先の話。そんな生徒たちが日々の学習の成果を目に見える形で確認できる場が漢検であり、非常に有益なものになっていると思います。

国語の世界には「言葉は生き物である」という考えがあり、表現などは時代によって様々に変化します。最近はひらがなの柔らかさが支持されていますね。一方で、漢字のように変わらない、ブレてはいけない部分もあります。正確に意図を伝えるには漢字の働きが非常に重要です。10年間に渡り漢検を担ってきたことを誇らしく思っていますし、これからも続けていきたいです。
ひらがなで書けば誤字のリスクを減らせるのですけれども、生徒たちには「自分の意図を正しく相手に伝えるには漢字がとても大事である」ということを、これからも説き続けていきます。（田代先生）